

ほんげみようしゅう
本化妙宗 (法華經・本門)

『幸せの条件』



いってんしかいかいきみようほう
一天四海皆帰妙法



幸せの条件とは、「経済の安定(お金)」と、「健康で長生き」と思
います。現に新聞・雑誌にも「金運きんうんを呼ぶ財布」「お金に好かれる法
則と」はたまた、「長寿ちやうじゆの為の食品」等々。では、日蓮聖人はどの様に
説とかれているのでしょうか。

＊ 蔵の財（即ち、経済の事です。）



持妙法華問答鈔に云く。

「生涯幾何ならず、思へば一夜の飯の宿を忘れて幾何の名利を得ん。又、得たりとも是れ夢の中の栄へ珍しからぬ楽しみ也。前世の業因に任せて営むべし」

現代釈

人生とはそう長くない、ただ一夜の飯の宿である事を忘れて、どれほどの財産を得たからと言っても、それは夢の中の栄へであるに過ぎない。夢物語である。入るものは入って来る、入らないものは入らない、自分の前世で決まっている、前世でどれだけの徳を積んだかで決まる、宝くじで大金を手にする人は前世で徳を積んだ人である。しかし、今財が入って無くても、いつかは又、前世の業因があるのに入る時には入って来るが、慾を以て自分の器以上の物を求めれば全て無くす事になります、自身が前世の業因を信じられるかどうかなのです。」

＊ 身の宝（即ち、健康や身体に備わる才能・

社会的地位や名誉又は家族に付いて）



四條金吾殿御返事に云く。

「いかにいとをし、離れじと思ふ妻なれども、死しぬれば甲斐無し。」

現代釈

いかに愛おしい、離れまいと思う妻なれども、
死んでしまえばどうにもならない

持妙法華問答鈔に云く。

「只須く汝仏にならんと思はば慢のはたほこをたをし 念りの杖をすてて偏に一乗に帰すべし、名聞名利は今生のかざり」

現代釈

世間に聞こえる名誉や評判又は利慾や利得は今生の飾りである。
(蔵の財も身の宝も今生限りのもので、寿命が尽きればそこに置いていかなければなりません。)

* 最後に心の宝です。(御本尊を信じ、日蓮聖人を通した本門の題目、これを唱え弘宣流布していく姿。)



阿佛房御書に云く。

「法華経の題目宝塔なり、宝塔又南無妙法蓮華経也 今阿仏上人の一身は地水火風空の五大なり、此五大は題目の五字也 然れば阿仏房さながら宝塔、宝塔さながら阿仏房 聞・信・戒・定・進・捨・慚の七宝を以てかざりたる宝塔也 我身又三身即一の本覚の如來なり かく信じ給て南無妙法蓮華経と唱え給え」



現代釈

南無妙法蓮華経と唱える私たちには七宝と言って七つの

たからもの
宝物たからものによって飾かざられています。七宝しちぼうとは、とてもとても、
高価こうかな宝たからもの石いしを云いいます。しかし、日蓮聖人にっれんせいじんの云いはれている七宝しちぼうと
は、物質ぶつしつてき的な財宝ざいほう（蔵くらの財たから・身みの宝たから）ではなく、「聞もん・信しん・戒かい・定じょう・
進しん・捨しゃ・慚ざん」の事こと、これこそが「心の宝たから」なのです。

- 一、聞もんとは、正法しょうぼうを聞きく。
- 二、信しんとは、わだかまりのない澄すんだ心こころで信しんじる。
- 三、戒かいとは、滅めつ悪あく勸くわん善ぜん（悪あくを滅めつして善ぜんを勸すすめる）
- 四、定じょうとは、禅定ぜんじょう、心こころを不動ふどうにして定じょうめる。
- 五、進しんとは、精進しんじん、懈怠けたいの心こころや退転たいてんなく真まことつ直ただぐ道みちを進すすむ。
- 六、捨しゃとは、執着しゅうちやくの心こころを捨すてる。
- 七、慚ざんとは、慚愧ざんき、自らの過あやまちちを反省はんじょうして、心こころに深く恥はづかしむこと。



「お母さんである久遠本佛くおんほんぶつが 赤ちゃんにお乳のお題目だいもくを
与あたえます。赤ちゃんあかちゃんは、このお乳おちちの栄養分えいようぶんや成分せいぶんがどうかと
一切いっさい疑うたがうこと無く、唯無心ただにこのお乳おちちを飲のみむ事ことです。」

南無妙法蓮華經

合掌

毎月第3日曜日に、法華經の法話会を行っています。

聴聞は、どなたでも参加出来ます。是非お越し下さい。

大阪府八尾市服部川933 安國寺 Ⅱ (072)941-8201

<http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/>

パワースポット「一塔合安 妙宗靈廟」で検索お願い

(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)